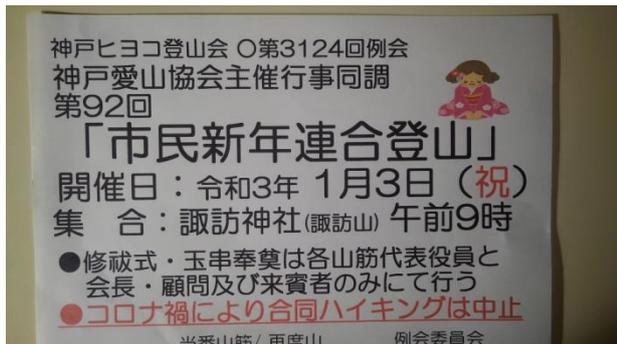


○令和3年1月3日(祝・日)開催  
第3124回例会 神戸愛山協会主催行事同調  
「第92回市民新年連合登山」の報告

(神戸愛山協会会長) 吉野 宏

写真撮影・布引支部 松本 良一

「新年連合登山」の歴史は古い。今を遡ること98年も前、大正12年1月3日(1923年)「第1回新年連合登山」が挙行され、修法ヶ原に59団体・約5000人近い会員が参加したと「神戸背山登山史(落合重信氏著)」には記述されている。前年の11月末(ヒヨコ創立の1ヶ月余りあと)に加西善兵衛氏(商人)の提案で、城谷寅一氏(神戸鶏鳴徒歩会)、花牟礼勝熊氏(愛山一仙会)、上田浅一氏(神戸突破嶺会)の4名で立ち上げられた神戸愛山協会は、井上史郎氏(毎日新聞神戸支局)の尽力により毎日新聞社の後援を得ながら、昭和18年1月に行われた第21回目までが戦前の歴史として残されている。



第92回新年連合登山(ハイキング中止)のポスター

戦中戦後の7年間の休会期間を経て、復活は昭和26年(第22回目)からであり、本年は第92回目を迎えたことになるが、その間(69年間)で本行事が中止となったことは記録にも記憶にも無い。

ところがである。ご存知のようにコロナ感染の急拡大は日を増す毎に、より深刻化して来て、決行か?中止か?の判断に迫られた。・・・

しかしながらこの行事の最大の目的は、神戸の生活文化として根付いている毎日登山に参加している市民や、背山六甲山を愛して止まない登山者・岳人達の「安全登山」を祈願するもの

であり、98年もの歴史と伝統を紡いで来たものであるゆえ、中止する訳にはいかぬと判断し、決行することとした。但し、当番山筋がお世話になっている地元の神社において行っている「修抜き並びに玉串奉奠」のみとし、ご来賓及び山筋代表と当番関係者、そして会長の16名のみとし、式後に行っている参加者合同ハイキングは大変残念だが中止とさせて頂いた。



穏やかな好天に恵まれた1月3日。本年の当番山筋は、毎日登山発祥の地・再度山である。その裾、諏訪山の中腹にある諏訪神社が今年の安全登山祈願の神社である。



諏訪神社全景(画像はネットより)

「本神社は、東にある生田神社と西にある長田神社の中間に位置するため、中宮と呼ばれていた。仁徳天皇の皇后・八田皇后の離宮鎮護神として創建。源平合戦に源義経が武運を祈ったという伝説もある。神戸あたりの旧地名の八田郡は八田皇后に由来するともいわれる。」・・・と神社案内にあった。又、本神社は1778年に



修抜き開始前に新年のご挨拶を(会長)

御神託により、京都伏見稲荷大社から宇迦之御魂大神を当社に勧請されたので、諏訪山稲荷神社とも言われており、健康長寿・商売繁盛を願う中央区の商人（あきんど）さん達の手厚い信仰神社であることがよく理解できた。



兵庫県山岳連盟・古賀会長より来賓のご挨拶

式は宮司様の祝詞（のりと）に始まり、修祓（しゅぱつ）によって清めて頂いた後、安全登山を神様に願う玉串奉奠へと進んだ。願いの順序は愛山協会会長、来賓者、そして来年の当番山筋代表者から順に行い、最後は今回の当番山筋である再度山で終わった。

宮司様からは安全登山や私達に対しての健康長寿等のお言葉を頂き、最後にご来賓として

お越し頂いた兵庫県山岳連盟・古賀会長よりご挨拶を頂戴して無事式は終了した。



再度山のシンボルをあしらった記念バッジ

例年、本行事に参加された皆さんに、当番山筋の特徴をデザインしたバッジをお配りしているが、今年はどうするか？と、これも悩んだが、合同ハイキングだけが中止となっただけで、式は挙行するのであるから作成することになり、再度山を象徴する市章及び錨をシンプルにデザインして作成、各山筋にお配りさせて頂いた。

来年は筆者が籍を置く布引山が当番となる。場所は「熊内八幡神社」。多くの皆様にお越し頂けるよう、コロナの終息を願わずにはられない。



記念撮影に収まる来賓と各山筋代表者・関係者